



第 12 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画

1 目的

ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。

2 主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

3 共催

鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

4 特別協賛

日本財団

5 特別協力

一般財団法人全日本ろうあ連盟

6 後援（予定）

内閣府、こども家庭庁、文部科学省、厚生労働省、倉吉市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、公益社団法人全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、一般社団法人日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK さんいん中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM 鳥取、DARAZ FM

7 開催日及び場所

(1) 本大会

ア 開催日 令和 7 年 9 月 14 日（日）

イ 場 所 エースバック未来中心（鳥取県立倉吉未来中心：鳥取県倉吉市駄経寺町 212-5）

(2) 交流会

ア 開催日 令和 7 年 9 月 13 日（土）（本大会前日）

イ 場 所 鳥取県倉吉市内

(3) 予選審査会・結果発表

ア 開催日 令和 7 年 7 月 17 日（木）、18 日（金）

イ 場 所 鳥取県庁

8 参加募集

令和 7 年 4 月 21 日（月）から 6 月 27 日（金）まで ※予選審査動画の提出期限は 7 月 3 日（木）

9 参加資格

令和 7 年度に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）・特別支援学校高等部・高等専門学校（3 年生まで）・専修学校及び各種学校の修業年限が高等学校と一致している生徒（校長の承諾が必要）

10 演技内容

以下の2部門に分けて演技

(1) 演劇・コント・ポエム等部門

演劇、コント、落語、その他のパフォーマンス（演技時間：3分～8分）

(2) ダンス・歌唱部門

ダンス・歌唱を中心としたパフォーマンス（演技時間：3分～6分）

（予選審査については、(1)(2)はともに3分以内の動画で審査）

11 本大会出場チーム

各部門の予選審査を通過した計16チーム

(1) 演劇・コント・ポエム等部門（8チームを選出。選出枠は次のとおり）

ア 得点順枠：4チーム

イ 合同チーム枠：1チーム

ウ 初出場枠：2チーム

エ 開催地枠：1チーム

(2) ダンス・歌唱部門（8チームを選出。選出枠は次のとおり）

ア 得点順枠：4チーム

イ 合同チーム枠：1チーム

ウ 初出場枠：2チーム

エ 開催地枠：1チーム

12 表彰

部門ごとに優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞を表彰。その他、全日本ろうあ連盟、日本財団、鳥取県聴覚障害者協会がそれぞれの団体賞（部門を問わず、各団体1チーム選出）を授与し、それ以外の出場チームには手話パフォーマンス奨励賞を授与する。

13 審査

(1) 予選審査会

ア 審査方法

両部門とも演技動画視聴（3分以内）による審査を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、本大会出場チームを決定する。なお、予選は両部門に同一校から出場可能とし、また、各部門において、同一校から複数のチームの参加は可能とするが、本大会に出場できるのは、各部門の予選審査で同一校中最上位のチームのみとする。なお、同一人が複数チームで参加することは認めない。

イ 審査員（計9名（審査員長は両部門の審査に参加する。））

（ア）演劇・コント・ポエム等部門 計5名（審査員長、きこえない・きこえにくい審査員2名、きこえる審査員2名）

（イ）ダンス・歌唱部門 計5名（審査員長、きこえない・きこえにくい審査員2名、きこえる審査員2名）

(2) 本大会

ア 審査方法

ステージ演技による審査を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、各受賞チームを決定する。

演技時間 演劇・コント・ポエム等部門（3分～8分）

ダンス・歌唱部門（3分～6分）

イ 審査員

予選審査会に同じ

14 本大会及び交流会の内容

(1) 本大会

ア 時間（予定）

午前9時30分から午後4時10分まで（予定）

イ プログラム

- (ア) 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介等）
- (イ) 出場チーム演技（前半：演劇・コント・ポエム等部門、後半：ダンス・歌唱部門）
- (ウ) ゲストコーナー
- (エ) 審査結果発表・表彰式
- (オ) 閉会

(2) 交流会

ア 時間（予定）

午後 6 時から午後 8 時 30 分まで（午後 7 時から午後 8 時 30 分までは高校生同士の交流時間とする）

イ 参加者

出場チーム（生徒・引率者）、出演者（司会、審査員等）、来賓、実行委員会関係者等

ウ プログラム

- (ア) 関係者挨拶
- (イ) 歓談
- (ウ) 出場チーム抱負 等

15 その他

- ・大会の裾野の拡大やレベル向上を図るため、これまで予選を通過したことのない学校を対象に、手話及び演技についてアドバイスできる者（手話パフォーマンスアドバイザー）を希望する学校に抽選で派遣する。
- ・ろう者とろう者以外の者との交流促進のため、大会への参加が、学校と各都道府県聴覚障害者協会との交流の契機となるよう、参加申込みした旨を学校から協会へ情報提供することを推奨する。
- ・大会に関わることにより手話への理解・関心を広めるため、高校生の大会運営等への参加を進める。